Newsletter
Vol.12
2011.JUNE.
Graduate School of Mathematics
NAGOYA UNIVERSITY
名古屋大学 大学院多元数理科学研究科

遅くまで寒い日が続き、少し好い季節だなと思った途端に梅雨入り。大地震、津波、竜巻、ゲリラ豪雨… 地球が大暴れしています。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。多元数理科学研究科では、被災地から苦労して入学してきた学生さんたちも含めて、また新しい年度の取り組みがスタートしました。一歩一歩でいいのです。前に進むことを心がけて、今年度も私たちの目線で多元数理科学研究科の活動をお知らせいたします。

新しいメンバーで13チームの学生プロジェクト始動！

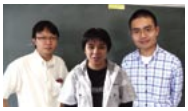
組合せ論的表現論とその周辺

朴鉉美*（D1） 佐渡原大樹（D3） 斉藤克典（D3） 原田雄太（D1）

物理学ではDimer問題と呼ばれているperfect matchingの数え上げに力を入れる。特に組合せ論的手法を使い平面またtorus上にAztec diamondから応用された領域のperfect matchingについての議論を重ねる予定である。

F-純性を中心とした正標数の可換環の研究

松田一徳*（D3） 千葉隆宏（D2） 保子昌徳（D2）



本プロジェクトの研究目的は、F-純性という共通のテーマのもとに、正標数の可換環論の研究を行うことである。F-純性と対数的標準特異点とが対応するかという問題に対し、F-純性の観点からアプローチを行う。

代数トポロジーと代数的K理論

齋藤翔*（D1） 加藤諒（D1）

本プロジェクトの目的は、代数トポロジーと代数的K理論に関連する分野の研究者と積極的に交流することです。研究集会に参加したり、学外から研究者を招いてセミナーを行うなどしてこの目的を達成していきます。

位相と論理の関わり

才川隆文*（D1） 佐藤雅大（D1） 倉永崇（D3）

基礎論と普通の数学を結び付けるものの一つとして、各種の論理と、各種の位相（幾何）的構造との密接な関係があります。本プロジェクトではこの関係について、近年発達しているホモトピー的型理論を中心に、研究と情報共有を行います。

誰が素因数分解を殺したか？

高橋祐人*（D1）

本プロジェクトの目的は、代数体のイデアル類群の諸性質を明らかにすることである。特に、類体塔と呼ばれる拡大列の一般化を考察することで、類数1の拡大体までの「遠さ」を従来よりも精密に把握することを目標とする。

力学系と幾何学

椋野純一*（D2） 高橋良輔（M1） 正谷優典（M2）

幾何に現れる力学系に関する研究課題を持つメンバーのより一層の研究の活発化が当プロジェクトの目的である。そのために、関係する学外の研究集会に参加や発表をすることや、メンバー同士の研究交流を図るために定期的なセミナーを開くことを予定している。

数論幾何の周辺

曽根浩一郎*（D3） 青木光博（D3） 杉山倫（D3） 田中健策（D3）

本プロジェクトでは、構成員が数論幾何を主題としてそれぞれの興味に基づいた研究を行います。必要に応じて、セミナーを行い、互いの意見を出し合うことで課題の解決に役立てたいと考えています。

フックス群とクライン群

足立真訓*（D2） 椋野純一（D2） 李娜（D1） 森本雄太（M2） 小関慎一郎（M1）

リーマン面、複素幾何学、双曲幾何学、ローレンツ幾何学といったフックス群とクライン群に隣接する分野の院生によるプロジェクトです。アイディアの交換を各自の研究にぜひ活かしていきたいと思います。

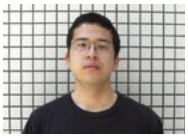
幅広い数論

佐々木太一*（D2） 伊東杏希子（D3） 島田佑一（M2） 高橋祐人（D1） 若狭尊裕（D1）

数年前より行われている「鏡が池の数論セミナー」を運営し、数論に関係する幅広い分野の研究に触れ、互いに交流を深めることによって各々の研究の一助とする。

Dixmier-Douady類に対するChern-Weil理論の展開

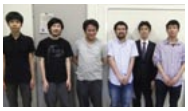
鈴木直矢*（D1）



本プロジェクトではDixmier-Douady類の性質や、関連するgerbe、Deligne cohomologyなどの研究を行います。研究集会への参加や、他大学からの講師による連続講義を行う予定です。

クラスター代数とその周辺

足立崇英*（D1） 小西正秀（M2） 高橋慶祐（M2） 中道尚史（M2） 神田遼（M1）



クラスター代数は2000年頃に出現した新しい可換環であり、その組み合わせ的構造は数学の様々な分野と関連する事が知られている。本プロジェクトは、クラスター代数の勉強会を行い、それぞれの専門分野においてその応用を考察することを目的とする。

ハルナック不等式と幾何解析

小林達彦*（D1） 若杉与志夫（D2） 岩崎拓哉（D1） 中村仁宣（D1）

ハミルトンのハルナック不等式は、その導かれる過程が神秘的であったため、多くの研究者がこれに対する特徴付けを与えてきた。本プロジェクトは、双曲型熱浴の観点から、ハルナック不等式に対する1つの解釈を与えることを目標とする。

The Variation of Reproducing Kernels

Yanyan Wang*（D3） 足立真訓（D2） Xu Liu（D1） 永田義一（M2）

Our project aims to study the variation of reproducing kernels, especially that of the Bergman kernel. We will design two seminars every week to discuss those problems and study the basic knowledge of the subject. One is about the several complex variables and the other is about the complex geometry. We also plan to attend a conference and a workshop to catch up on current research.

* 代表者

さまざまなキャリア形成支援

もうひとつの「学生プロジェクト」

院生キャリア支援大学教員養成事業・学生プロジェクト

院生のキャリア形成を支援することを目的として名古屋大学高等教育研究センターと連携し、今年度新たに募集をしたプロジェクトです。

◎具体的な内容としては
- 教材研究（統計学、確率論、応用数学、情報理論、等）
- 講義開発とシラバスの作成
- 学内外の講義の聴講
- 模擬授業の実施、デモビデオの作成
- 大学教育セミナーの企画、実施
- ウェブページの作成による成果公表、宣伝

などで、これらをできるだけ自主的に行なえるような学生プロジェクトを組織することを目的としています。

今年度は以下の2グループが採択されました。

「博士課程での数学研究の大学教育・企業活動への応用」
D1　才川隆文、　D1　佐藤雅大

「大学における数学関連教員採用の実態調査」
D1　鈴木直矢　M2　大城和秀、小西正秀、永田義一、松岡謙晶

名古屋大学高等教育センター研究員 豊田 哲さんにインタビュー

「大学院生キャリア支援大学教員養成事業・学生プロジェクト」の相談役、指導役として活動される豊田哲さんをご紹介します。豊田さんは昨年度「教務助教」として多元数理科学研究科で教育経験を積み、この4月から「名古屋大学高等教育研究センター・研究員」として新しい道に進まれました。現在の活動内容をお伺いしました。　片田 栄里

名古屋大学高等教育研究センターは、大学教育の質の向上を目指して、様々な活動を行っている所です。多元で発足した「大学院生キャリア支援大学教員養成事業・学生プロジェクト」のサポートも行っています。

今は、数学の研究を続ける他に、高等教育研究センターの新人研究員として、自分が役立てることを模索中です。
例えば、東海地区の大学の数学教員間のネットワークを作れたら、多元の皆さんのキャリアパスにもお役にたてるかななどと夢想したりしています。

豊田さんへのインタビューの様子

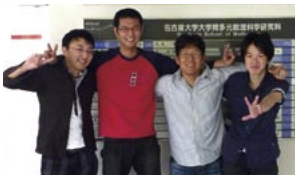
教務助教

素晴らしいチームワークで1年生の演習を担当

今年度もキャリアパス形成の一環として教務助教四名が採用され、松本詔助教を中心に理学部1年生の数学演習クラスを担当しています。多元数理科学研究科で学んだ経験を生かし、それぞれ工夫を凝らして指導にあたる個性豊かな四人の様子を紹介しましょう。　三嶋 ひかる

数学演習クラスについて　教務助教のみなさんのお話

数学演習クラスでは松本詔先生を中心に、数理学科志望の学生だけでなく、他学科志望の学生にも数学を理解し、好いてもらえるよう努めている。また、数学の基礎的な内容を扱うが、教えるときには、学生にその問題の先にある応用を意識させられるようにしたい。


今年度の教務助教4名

☆リレー紹介☆

☆飯島さんは教務助教のリーダー的存在で、頼りになるお兄さんという感じ。説明がとても上手く、いつも感心しています。　塩見大輔

☆塩見さんは非常に几帳面で、研究室の机はとってもきれい。教育、研究、プライベートの使い分けが上手です。　山路哲史

☆山路さんは温厚な性格で、「癒し系」として人気。それとは裏腹に研究に対しては情熱的で、その飽くなき探究心を見習いたいです。　加藤孝盛

☆加藤さんは実力派市民ランナー。ほぼ毎日、15kmくらい走りに行くのを驚嘆の眼差しで見送ります。走っているときに数学のアイデアが浮かぶのかもしれませんε=ε= ┌(>_<)┘　飯島和人

STA（スーパーTA）

基礎演習クラスを補助

基礎演習クラスでの曽根さん

STAとはキャリアパスを充実させる取り組みの一つとして、後期課程の学生が前期課程学生に対する予備テスト補習クラスを業務とする制度です。修士学生の学力を予備テスト合格ラインにまで押し上げるために不可欠な存在です。今年（前半期）はD3曽根浩一郎さんが担当します。一見クールな曽根さんにお話を伺いました。　田中 美穂子

STAは前期課程学生を対象とする基礎演習クラスの補助を担当します。実務としては、基礎演習クラスに出席し、学生からの質問に答えるなどして個々の学生の理解を助けます。内容は線形代数と微積分です。この科目の知識は数学においてとても重要であり、予備テスト合格は修士課程修了の必須要件です。そのため、受講している学生も懸命なのでやりがいを感じます。今年は1人ですが、担当教員と協力して行えるので非常にやりやすいです。それに、自分としても基礎力の復習になります。
STAには学生プロジェクトと同様に研究費の補助が認められています。これは研究に必要な書籍の購入や研究集会に参加するための旅費などに使用できるためより活発に研究活動も行えます。そのような環境を整えていただき、とても助かっています。

数理科学同窓会総会　特集

名古屋大学数理科学同窓会総会は、約11ヵ月にわたる準備期間を経て、2011年4月29日（金、祝）に盛大に開催されました。東から西から約180名の方にご参加いただき、理学部数学科創設から74年間受け継がれてきた自由闊達な伝統と誇りが今も息づいていることを、そして同窓会が卒業生／修了生と在学生との縦と横のつながりの強化に大きな力を発揮することの重要性を再確認しました。

当日は、様々な出会いのシーンが繰り広げられ、厳かな中にもあたたかさの感じられる会となったと思います。当日の様子を写真を添えて「特集」としてご紹介します。
今後も同窓会が担うべきことを見据えながら、地道に継続的に活動を支えていける同窓会組織であることを願います。

小崎 和子

総会

来賓のご挨拶

國枝 秀世氏　名古屋大学理学同窓会長　名古屋大学理学部長
伊藤 正之氏　名古屋大学名誉教授

司会の石川勝氏の開会の辞に続き、東日本大震災の犠牲者への黙祷を捧げました。木村芳文同窓会長の開会の挨拶の後、ご来賓の方々からご祝辞をいただきました。

司会　石川勝氏

ご来賓　國枝秀世理学部長

ご来賓　伊藤正之名誉教授

名誉会員推挙
学生奨励賞創設の提案

名誉会員制度を創設し、名誉会員として名古屋大学名誉教授飛田武幸氏（名古屋大学理学部数学科旧制第9回卒）を推挙しました。また、学生奨励賞を創設し、名誉会員飛田武幸氏に因んで「飛田賞」と呼ぶことが承認されました。
旧事務職員の伊藤（旧姓　高柳）潮子さんから飛田先生の名誉会員証の受賞と学生奨励賞（飛田賞）の創設をお祝いして花束を贈っていただきました。

名誉会員証

名誉会員証を受賞する飛田武幸名誉教授

旧事務職員伊藤さんから花束の贈呈

同窓会活動報告
沿革紹介

名古屋大学数理科学同窓会副会長の日比政博氏より、同窓会の活動報告ならびに同窓会の沿革紹介が行なわれました。

同窓会活動を報告する　日比政博氏

思い出アーカイブ「あの頃のあなた」

理学部数学科時代から永く数学教室の事務職員として勤務している小崎和子の企画編集による 思い出アーカイブ「あの頃のあなた」が上映されました。名古屋大学理学部数学科創設から74年の歴史を映像で辿り、「あの頃のあなた」に大勢登場していただきました。資料提供、映像ファイル作成にご協力いただいた方々に感謝いたします。

思い出アーカイブ「あの頃のあなた」

記念講演会「研究三昧の日々」

森 重文氏　京都大学数理解析研究所長　名古屋大学特別教授

今回の総会のメインイベントである記念講演を1990年にフィールズ賞を受賞した森重文教授にお願いいたしました。森先生が名古屋大学理学部数学科に教員として在籍した10年（1980年～1990年）の日々は研究三昧だったとのこと。その頃の研究の様子を講演していただきました。
講演の後、旧図書職員の森（旧姓　鬼頭）恵美子さんから花束を贈呈していただきました。森さんは「森先生の講演を是非聞きたい」というお嬢さんとご一緒に千葉から参加してくださいました。

講演する森重文教授

旧図書職員森さんから花束の贈呈

記念写真撮影

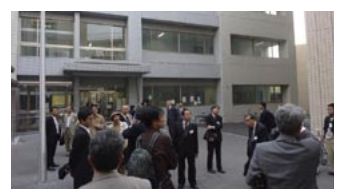
これだけ大勢の集合写真を撮るのはプロのカメラマンにとっても至難の業だったようですが、何度も打合せをした成果がこの写真です。

参加者勢揃いの写真

名古屋大学キャンパス見学

卒業生・修了生の方が在学していた頃とはすっかり様子が変わった名古屋大学の構内を見学していただきました。この4月に完成したばかりの名古屋大学理学南館、統合された理学図書室、多元数理科学研究科の建物を主にご案内しました。

ノーベル賞展示室のある建物


多元数理科学研究科の建物

懇親会

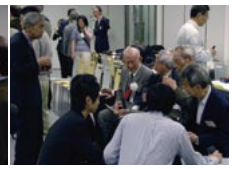
司会　古結明男氏、間瀬順一氏

会場をMei-dining（南部食堂という名前の方が馴染みの深い方も多いと思います。）に移して、古結明男氏、間瀬順一氏の司会でなごやかに懇親会を開催しました。

乾杯　三浦 聰氏（新制第1回卒）

新制第1回卒業の三浦聰氏の乾杯に始まり、会は終始明るく暖かい雰囲気で進行され、それぞれの時代、それぞれのグループで話題が沸騰していました。

三浦聰氏の音頭で乾杯!



楽しく懇談する同窓会のメンバー

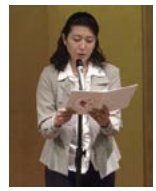
祝辞　砂田 利一氏　明治大学理工学部教授

1974年から1991年まで理学部数学科に在籍された砂田利一教授から御祝辞をいただきました。後日感想も寄せていただきましたのでご紹介します。

砂田利一教授よりご祝辞

名古屋大学には17年在籍しておりました。私にとって第二の母校とも言える大学です。これまで、小中高大の同窓会というものに出席することはほとんどなかったのですが、今回「母校」の同窓会に招待していただき、多くの懐かしい方々にお目にかかる機会を得ることができたことは、最高の喜びでした。また、多元数理の華々しい躍進ぶりを見て、とても嬉しく思いました。これからのますますの発展を祈念しております。

祝電



祝電、メッセージを紹介する伊藤由佳理氏

寄せられた祝電、メッセージ

寄せ書き

ご参加のみなさんの思いを、総会の垂れ幕に寄せ書きをしていただきました。数学を学んだことの誇り、旧友・恩師との久々の再会の喜び、次回の総会への期待などたくさんの思いが垂れ幕に込められました。

たくさんの寄せ書き

中日新聞の取材

5月11日に中日新聞社会部の記者、中村禎一郎氏の取材がありました。その数日後の5月15日の社会面に数理科学同窓会の記事が大きく取り上げられましたのでご紹介します。

優秀学生ら奨励　飛田賞を創設

名大数理科学同窓会

中日新聞掲載記事

参加者のこえ　当日参加していただいた皆様の中から、数名の方に感想を伺いましたのでご紹介します。

企業人にとって多くのヒトとの繋がりは、自身を高め仕事を豊かにする生命線であるが、数理科学同窓会は普段接点の少ない企業人や大学人の間を結び付ける役割を見事に果たしていた。今後も有機的な繋がりを生み出す源泉であって欲しい。

平成18年3月修了　河本大知

同窓会最高でした。数学の仕事に関われて、そして、数学科出身であることにあらためて誇りを持てる一日となりました。昔、お世話になった先生方にお会いできたのも嬉しかったです。

平成4年3月卒業　志田晶

多くの先輩方にお会いし、名古屋大学の歴史の深さを感じました。名古屋大学卒業生であることに誇りに思うと共に、先輩方を目標にこれからも努力していこうと強く思いました。次回の総会も是非参加したいです。

平成22年3月修了　椿 侑祥

大学近くのレストランに同学年で集まって旧交を温めた後数学科全体の同窓会へ。会は映像中心で、昔の写真が次々と現れてとても楽しめる内容で、準備された方々の苦労がうかがわれました。次回も楽しみにしています。

昭和46年3月卒業　吉川 理

参加者で一番若い方と最長老（白尾恒吉先生かな?）とでは年齢差60歳以上の集まりはよかったですね。個人的には、何人もの恩師、先輩そして後輩の方々と久し振りに歓談し、楽しい一時を過ごすことができました。数学の人間は大きな会を開催することはとかく不得手なのですが、このような立派な会を準備していただいた方々に深く感謝しています。

昭和40年3月卒業　井原俊輔

懇親会は皆さんの楽しげなお顔が集まっています。飛田先生のお元気な姿がひときわ輝いておられます。精力的に歩き回って歓談される飛田先生のように、いつまでも元気でいたいと思いました。卒業後40年ぶりにお目にかかりましたが、本当にお元気で、見習わなくては・・・と素直に思いました。

昭和46年3月卒業　小林篤矢

（小林さんにはカメラマンとして皆さんのショットを撮影していただきました。）

募金にご協力ありがとうございました。

東日本大震災による被災者の方々への支援募金にご協力いただきありがとうございました。総会にご参加いただきました皆様からの募金42,510円を、「名古屋大学数理科学同窓会総会参加者」からとして中日新聞社会事業団を通じて被災した方々への支援に役立てていただくこととしました。

総会当日の写真をご希望の方へ

総会／懇親会の様子を沢山の写真に収めてあります。写真をご希望の方は同窓会事務局までお申し込みください。

申 込 先：〒464-8602　名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院多元数理科学研究科　教育研究支援室内　名古屋大学数理科学同窓会事務局
TEL:052-789-2833　FAX:052-789-5397　電子メール:dousou@math.nagoya-u.ac.jp

申込方法：住所、氏名等連絡先を明記して、電子メール、FAX、郵便のいずれかでお申し込みください。（電話でのお申し込みはご遠慮ください。）

全ての写真を一枚のCDに入れてお送りします。選定しやすいように工夫してデータを整理しておきますので、写真の選定はご自身でお願いいたします。お申し込みの方には、実費＋送料（300円程度）をご負担いただきます。お申し込み後に金額等お知らせいたします。

この件に関するお問い合わせは同窓会事務局までお気軽にどうぞ。

日常的な交流をめざして

お料理をつくるとか、食べるとか、歌うとか、踊るとか、運動するとか、楽器を演奏するとか、花を愛でるとか、感動して泣くとか、ケンカして怒るとか、意見を交換するとか…そんな日常的な諸々のことに、留学生と私たちの間にバリアフリーが実現できたらという思いが形になりました。
互いに歩み寄ることでことばの壁を乗り越え、協同して何かを取組むことで心の通うコミュニケーションが生まれます。まずは何かを始めてみようと企画された2つの交流イベント。今後の発展が大いに期待される企画となりました。留学生も日本人学生も母国語以外のことばでも自分の考えをきちんと伝えられるようになることをめざして、これからアイディアを寄せ合って第2弾、第3弾と充実した内容に進化＆深化させて行きたいものです。

留学生交流イベント 1

サッカー編

留学生とサッカーをしたいという学生からの要望があり、ゴールデンウィーク明けのある天気の良い日、昼休みを使って、フットサルコートへ出向きました。
みんなで汗を流しながらしたサッカーは、それぞれに楽しんでいたようで、その後も第2回目が行われ、定期的に開催されそうです。興味のある方はぜひ参加してみて下さい。

留学生とお昼休みにサッカーを楽しむ

留学生交流イベント 2

ミニプレゼン編

大学祭の最中、多元数理科学研究科では、留学生との交流イベントと題してミニプレゼンテーションを学生達に行ってもらいました。最終目的は、母国語以外の言葉を使用して、人前で自分の意見を述べられるようになることです。留学生は日本語で、日本人学生は英語で発表をし、プレゼンの間と後にはお茶を飲みながら、参加者同士の交流が行われていました。プレゼンテーションのテーマは自由で、参加者それぞれの興味のある話が展開され、ダンスを披露する学生もいたりして個性溢れる発表になりました。多元数理科学研究科以外の学生の参加もあり、もっと幅広く宣伝をして欲しいとの声もありましたので、参加者のみなさんに満足していただけるようなイベントにするため、また次回に向けていろいろとアイデアを募って行きたい思います。

渡辺 ゆかり

中国山東省済南市に関するプレゼンをする留学生

高知県の踊りを披露する日本人学生

ミニ同窓会の様子

働くこと&インターンシップセミナー／ミニ同窓会
◆先輩から後輩へ◆

進路指導・キャリア教育支援の一環として6月3日(金)に「働くこと＆インターンシップ」が行われました。今年度初の試みです。この会は先輩達の体験談を通じて学生自身が己の将来を考える一助となることを願って開催されました。地震の影響が未だ残る忙しい折に、16社のOBの方々からお話を伺うことができました。資料では分からない社会でのご苦労や雰囲気を直に聞くことは、通常の企業案内よりも価値のあるものです。
また、会の終了後には卒業生と在校生を繋ぐ目的で「ミニ同窓会」を開催しました。学生が実社会で活躍している方々に直接話しかける良い機会となりました。

田中 美穂子

オープンオフィスアワー CAFE DAVID

縦の交流を深める楽しいカフェ

Cafe David ポスター

コーヒーを手に数学の議論

オフィスアワーの充実をはかるカフェダヴィッドは今年度も盛況です。月曜から金曜の昼休み、1号館2階のリフレッシュスペースがカフェダヴィッドの「営業場所」です。おいしいコーヒーを飲みながら、多元数理科学研究科の学生、教員が「数学」について質問、議論し、交流をはかるのがカフェダヴィッドです。授業中の疑問やレポートの書き方など学部生の質問に、大学院生が答えるのが中心。気楽に立ち寄って、有意義な成果が得られるところが魅力です。

カフェダヴィッドには理学部所属の学部生から大学院生、そして当番の教務助教から教授まで幅広い世代が訪れます。カフェ内の様子を見ると、ボードに数式を書いて真剣に議論している集団もあり、廊下の遠くから様子を見て参加しようか迷う姿もあります。中にはサンドイッチを持ち込んで無料のコーヒーで昼食を済ませる豪奢もいる模様。こんな自由な雰囲気の中で、幅広い世代がフランクに「数学」の議論を展開するところがカフェダヴィッドの大きな特徴です。

野地 賢一

2011年度前期 CAFE DAVID 営業案内
営業期間　4月18日(月)～7月29日(金)

営業時間				＊1時まで
月曜日 12:00-13:30	伊師英之	宮地兵衛	山路哲史	
	濱谷隆文	池田創一	河田高志	椋野純一
火曜日 12:00-13:30	笹平裕史＊	長尾健太郎＊	松本　韶	飯島和人
	吉田　誠	高橋祐人	鈴木直矢	
水曜日 12:00-13:30	菅野浩明	木村芳文	浜中真志	
	松岡謙晶	松田一徳	島田佑一	
木曜日 12:00-13:30	川村友美	洞　彰人	塩見大輔	
	瀬戸　樹	小西正秀	斎藤克典	
金曜日 12:00-13:30	糸健太郎	川平友規	加藤孝盛	
	倉地佑斗	曾根浩一郎	神田　遼	

Cafe David 前期担当表(教員、TA)

多元数理科学研究科より

大学院入試情報

平成24年度 名古屋大学大学院 多元数理科学研究科

博士課程（前期課程）（第1次募集）

平成23年7月23日㈯ 筆記試験　24日㈰ 合格発表

博士課程（後期課程）（夏期募集）

平成23年8月1日㈪ 筆記試験　2日㈫ 口述試験、合格発表

願書受付期間　前期課程、後期課程とも　6月29日㈬～7月12日㈫

博士課程（後期課程）（10月入学）

平成23年7月16日㈯ 口述試験、合格発表　＊平成23年度10月入学の入試です。

願書受付期間　6月29日㈬～7月5日㈫

◎大学院入試に関する詳細は
http://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/admission/index.html をご覧ください。
また、ご質問などは exam12@math.nagoya-u.ac.jp 宛てメールでお問い合わせください。

数学アゴラ

高大連携の一環として愛知県教育委員会の『知の探究講座』とタイアップして開催されます。

2011年8月8日㈪～8月11日㈭

名古屋大学多元数理科学棟（理1号館）509号室

受講者募集中！ 7月20日までに申し込んでください

講義
- 粟田英資准教授 >>> 相対論と量子論入門
- 伊師英之准教授 >>> 四元数入門
- 内藤久資准教授 >>> コンピュータ・インターネットと数学

◎申込み方法等数学アゴラに関する詳細は
http://www.math.nagoya-u.ac.jp/ja/public/index.html をご覧ください。

ガイダンス、新入生歓迎パーティ

3月の学部向けのガイダンスに加え、4月7日に大学院向けのガイダンスを実施しました。
午前中は多元数理科学研究科での学び方を中心として、就職、キャリア支援、ハラスメントに関する説明、午後は写真撮影、計算機ガイダンス、図書館ツアー、夕方は歓迎パーティと一日中盛り沢山のプログラムが用意されました。
新年度の始まりにふさわしい活気に満ちた一日でした。

新入生歓迎パーティ

教職合格をめざして

教員採用試験合格を目指す学生に対して、3回シリーズの講義を企画しています。名古屋大学数理科学同窓会教員養成支援グループのメンバーが講師となり、教員採用試験合格者の体験をもとにアドバイスを行うもので、第1回目は4月30日に開催され、1次試験、2次試験の内容とその対策について講義が行われました。大勢の学生の参加があり、関心の高さを示しています。次回は7月10日（日）に開催されます。

教員採用試験合格を目指して

院生キャリア支援大学教員養成事業「学生プロジェクト」説明会

今年度から新たに院生キャリア支援大学教員養成事業「学生プロジェクト」が導入されました。多元数理科学研究科OBで現在名古屋大学高等教育センター研究員の豊田哲氏からプロジェクトに関する説明が行なわれました。（関連記事 2面）

院生キャリア形成支援事業の説明会

教育研究支援室より

教育研究支援室では、正しい情報の提供・明るく拓かれた窓口を目指しています。
現在、私たち"TEAM支援室"は、4月から新しくメンバーとなった3名を含む6名で構成されています。TEAM支援室は、いつでも来訪者の皆さんに自信を持って対応できるよう、担当業務の垣根なくあらゆる情報や意見の交換を行っています。

5月19日、20日に「院生室訪問」を実施しました。
院生室訪問では、学生の皆さんの研究生活を一部垣間見ることができました。　片田 栄里

院生室訪問

編集後記

大震災、新生活のスタートから数ヶ月。傷が癒えていない人、困難にぶつかっている人などにある読みものから見つけた言葉を紹介したいと思います。
～あまりに大きな悲しみ、無力感にぶつかったときは、無理にポジティブにならなくてもいい。悲しみを充分に感じきることも、それを乗り越えるうえで大切なことだから。元気なときには、遠くを見渡すことも必要だけど、つらいときには、とにかく今だけ、足もとだけをしっかり見据えて、そこにあるものを無心でこなしていく。毎日それを続けていれば、悲しみにもやがて疲れ、ふっと顔を見上げたとき、自分がずいぶん前へ進んでいることに気づく日がやってくる。困難には必ず次の幸せにつながる学びの側面が潜んでいるから～　渡辺 ゆかり

名古屋大学 大学院多元数理科学研究科
〒464-8602 名古屋市千種区不老町
TEL（052）789-2833　FAX（052）789-5397

企画編集　教育研究支援室